



「アジア漢字文化圏における19世紀近代日本製新漢語の普及による西洋概念の浸透」

学 習 院 大 学 【 文 学 部 日 本 語 日 本 文 学 科 教 授 安 部 清 哉 】

研究者紹介

主な研究分野は、①日本語の語彙・語法の歴史、②方言分布の古代での形成の歴史、③古典資料の研究(近年は『篁物語』)で、要するに古い日本語の歴史的な研究です。ここでは、語彙史研究の1つとして調査している「漢語語基の近代新概念獲得による新漢語の爆発的增加と東アジアでのその共有」についての研究を紹介します。

【キーワード: 日本語学、方言学、漢語、語彙史、古典文学、語基】

本研究の目的・内容

現在、東アジアの漢字文化圏では、日本が幕末から近代期に西洋文化を大量に受容した際に新たに作った漢語(漢字語)が極めて多く共有されている。それらは、西洋の思想や概念を日本語に取り入れるために生み出した翻訳語で、言わば「日本製新漢語」であった。その際、その翻訳語に使用した漢字の「語基(熟語の基幹となった漢字部分、例えば活躍の「活」や「躍」など)」に、新しい西洋の概念に合わせた意味が加わった(例:電気の「電」が《雷》からelectricityへ変化)。

本研究は、この日本製新漢語の「語基」に注目して、従来、単語単位・資料単位だった漢語研究の視点と方法を「語基」の漢字単位で見ることによって、近代に求められた新漢語の特徴、新概念とその文化的特徴の解明を目的とする。新漢語を見ると、「活、躍、開、発、進、興、行」など発展・発達・進化していく近代文化に相応しい漢字や、新概念を獲得した漢字(例:上記の「電」)が多い、などの傾向を見出せる。本研究では、それら新時代を創った漢字に特に注目する。

日本製新漢語は、後に中国語や韓国語にも受容され、基本語として現在も広く共有されている。台湾語も含むアジアでの受容史も比較検討し、日本製新漢語がアジア漢字文化圏の近代語形成史に及ぼした影響も解明する。

本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

漢語の増殖を「語基」単位で分析すると、1文字毎の文化的背景も考察でき、かつアジア漢字圏での日本製新漢語浸透の文化史的側面をも解明できる。実用面では、日本語教育の初級の漢字教育で、その漢字を共有する語彙の意味の共通性をまず教えると、学習効果が高く効率的になる。漢字文化圏の学習者は母語漢字語との僅かな音と意味の違いに注意するだけで、多くの日常日本語を理解出来るようになる。漢字が苦手な西洋人は、西洋概念と漢字との密接な関連性に興味を持ると、漢字学習の効果も上がる。

主な研究業績

【科研費】基盤研究(C)一般(課題番号17K02785)「古典日本語の連語構成・詞辞複合表現形式の通時的基礎研究」
他、これまでの科研費採択計12件(うち、研究代表者6件)

【著書】『日本語の音(日本語ライブラリ)』共著 朝倉書店 2017

『語彙史』(シリーズ日本語史 2、共編著) 岩波書店 2008

『日本語源大辞典』小学館 2005 他、共編著ほか約10冊

応対できる研究・企業等への希望

- 共同研究
- 受託研究/評価試験
- 学術指導/コンサルテイング
- 講演/出張講義
- 寄付金受入
- 報道等の取材/出演
- その他(日本語学習への助言)

研究者より:

- ・古典語・現代語で機能している連語形式・複合表現形式(複合詞)の抽出と分析法の開発も研究テーマと考えています。

【お問い合わせ】

学習院大学 研究支援センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©'12-'18 GAKUSHUIN